

石灰工業 125周年を記念し祝宴 中田工 資源創出と循環に貢献

石灰の製造販売や廃棄物の処理などを手掛ける田中石灰工業（高知市、田中克也社長、088・8882・1158）は11月22日、創

め国会議員、顧客、関係者など約200人を招き、日頃の支援や事業への理解に感謝した。

祝賀会の冒頭、あいさつに立った田中社長は、これまでの同社の歴史を振り返りつつ「当社は石灰業、鉱山業、環境事業へと、時代の変化とともに軸足を

移してきた。その柔軟性がそがわれわれのDNAであり強みと考えている。これからも資源の創出と循環に取り組み、企業市民として地域へ貢献していきたい」と述べた。

一方、来賓からは尾崎知事が登壇。「地域の歴史や風景を見て、田中石灰工業のこれまでの仕事の大きさを実感した。全国でも珍しい100年企業でありながら、日本だけではない

く世界の最先端の課題に取り組んでいることに、心から敬意を表したい」と祝辞を送った。加えて、衆議院議員・石田祝稔氏、日本製鉄・毛利貞仁氏も祝いの言葉を寄せた。式典では、同社発祥地であり一般廃棄処理を担っている南国市への寄付金

の贈呈や、長唄住吉会による記念講演が行われ、宴を彩った。同社は1894年の創業。石灰や漆喰製品の製造業を展開する傍ら、製鉄副資材として蛇紋岩などを産出する。鉱山事業も手掛ける。1972年には廃棄物処理事業に進出。幅広い一廃・産廃の処理を担い、近年では廃プラスチックのマテリアルリサイクルを高知県・北海道の3拠点展開するなど、持続可能な社会構築へ貢献している。



田中克也社長



記念祝賀会の様子